

# 「4つの視点」鮮明に、三里塚・国鉄で反撃にうつてよう



## 日刊動労千葉

83. 10. 10

No. 1463

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

大 会 宣 言

われわれは、激動する情勢のなか、第八回定期大会を開催し、新たなたたかう運動方針を満場一致で決定した。

いま、全世界は、恐るべき世界戦争の現実の危機に直面している。その中で、日本帝国主義は体制的危機の出口なき深刻化にあえぎ、その絶望的打開を、軍事大国化・改憲にすえ、戦後民主主義や戦後階級関係を右から全面的に破壊する凶暴な「上からの内乱」攻撃にうつたえてきている。文字通り「戦後政治の総決算」をかかげた侵略と戦争にむけた歴史的な大反動攻撃である。

その第一の特徴は、「不沈空母」「四海峡封鎖」「シーレーン防衛」「日米運命共同体」論や防衛費の突出、大韓航空機撃墜事件をテコとするすさまじい対ソ対決ソ連脅威論、原子力核空母カールビンソン寄港日米共同演習の激化、十一月レーガン来日強行などに明らかのように、軍事大国化・憲法改悪、アジア侵略と核武装化攻撃の決定的エスカレーションである。

第二の特徴は、国鉄再建監理委員会の「緊急提言」、貨物全廃にむけた「59・2ダイ改」、内達一号廃止などの動乗動改悪攻撃、ワッペン着用禁止、名礼着用強用など「職場規律の確立」等々、実にすさまじい国鉄労働運動全面圧殺攻撃がふきあれていることである。しかも、動労「本部」革マルをそのファシスト的尖兵とした凶悪な攻撃である。

われわれは、かかる攻撃を断じて許すことができない。このような軍大化と改憲のための攻撃の最大の特徴は、三里塚闘争の暴力的圧殺Ⅱ三里塚二期着工攻撃である。「国策」をふりかざした問答無用の農地取り上げⅡ農民殺しの攻撃に対して、十八年間「農地死守・実力闘争」の正義のたたかいを不屈につらぬいている三里塚闘争は、全人民の闘う砦であり、反戦・反核闘争の中軸であり、権力の暴虐を実力でうち破つて\*



\*日々勝利している闘いである。三里塚闘争は、日帝・中曽根の全反動をうち破つていく力を秘めた闘争である。基本路線を裏切り、日帝・公団の反同盟破壊攻撃の尖兵と化した一坪一脱落派を粉碎し、二期決戦に必ず勝利して、日帝・中曽根を本当にゆるがしていく闘いをきりひらかなければならぬ。事態は鮮明である。日帝・中曽根は、人民のたたかいかや抵抗をことごとく圧殺し、軍拡と戦争政策を強行するために、人民圧殺攻撃の照準を、「三里塚」と「国鉄」に定め、全体重をかけた決戦的攻撃を加えてきているのである。

われわれは、「三里塚」と「国鉄」という、日本労働者階級人民の最強の拠点を戦場に、決戦を迎えることに勝利の確信をがちりうちかため「三里塚・国鉄を基軸に闘う労働運動」路線のもと、勇躍、決起するものである。

われわれはまず第一に、自ら血を流してたたかいた三里塚・ジェット闘争の戦闘的地平を誇りをもつて継承・発展させ、三里塚労働連帯を一層強化し、二期決戦勝利のために全力でたたかう。三里塚闘争を基軸とする階級的労働運動路線の全国的拡大・強化により、必ずや二期決戦に勝利し、日帝・中曽根の全反動をうち破る突破口をきりひらくであろう。

第二に、反合実力闘争の階級的視点をあくまで貫き、「59・2ダイ改」、動乗動改悪、職場規律の確立をはじめとする国鉄労働運動解体攻撃と対決し、国鉄決戦の先頭にたつて闘うものである。

第三に、いまや日帝・国鉄当局に全面屈服し、「職場と仕事を守るために」と称して裏切りと階級協調、企業防衛主義に転落し、産報化運動の尖兵になりさがっている動労「本部」革マルを完全に打倒し、動労大改革を実現するために断固としてたたかいかいぬくものである。